

式 辞

本日の入学式にあたり、多数のご来賓、保護者の皆様の御臨席を賜り、令和六年度 調布市立第八中学校 入学式を挙げてまいりますことに、謹んで御礼を申し上げます。

さて、ただいま呼名した百九名の新入生の皆さん、今日から皆さんは第八中学校の生徒です。勉強や運動などに打ち込む日々を過ごすことになるでしょう。ぜひ充実した中学校生活を送れるよう頑張ってください。

中学生になるとさまざまなことが変化します。学校の一日の流れが変わりますし、学習する内容もより高度なものになっていきます。身体も子どもから大人っぽいものに近づき、その変化は自分でも驚くほどです。

そして、そのような変化とともに、ものごとの考え方も変わってきます。もっとも大きいのは他の人のことを考えられるようになるということではないでしょうか。小学生まではもっぱら自分や自分の身近な人のことを考えることが中心でした。しかし、年齢が上がるにつれ、皆さんはより広く存在する人々のことも考えながら行動できるようになります。視野が広がり、世の中は他の人と支え合いながら成り立っているということを、心の底から気付くようになります。

令和の時代になり、ウェルビーイングという言葉が注目されるようになりました。これは日本語に訳すのが難しい言葉ですが、簡単にいうと幸福な状態という意味です。しかし、単なる幸福とは違います。例えばおいしいものを食べたとき、そのときに感じる幸福感は自分一人のものであり一瞬のものです。ウェルビーイングとはそういうものと違い、もっと広く社会全体が持続的に幸福である状態を指します。つまり、他の人の幸福感を大事にして、それを実現することこそ自分も本当に幸福と言えるのだという思い、大切な人を幸せにすることが自分の幸せでもあるのだという思い、そういう思いに包まれた社会にしていこうというのがこれからの時代です。

これまでは自分一人の幸福について考えることが多くありました。しかし、中学生になると、社会全体のウェルビーイングについても考えられるようになるでしょう。

今年度の本校のスローガンは『和顔愛語の心をもって、心理的安全性の高い学校を目指す』です。和顔愛語とは、いつでもおだやかな優しい笑顔で人と接し、思いやりのある言葉掛けをするという意味です。私は、ウェルビーイングの根底には、この和顔愛語があると思っています。相手を思いやり幸せな気分にする。それは決して自分の幸せを後回しにして誰かのために犠牲になるということではありません。人々の幸福を願うことが、本当の意味での自分の幸福につながるということです。

新入生の皆さん、新しいスタートはぜひ笑顔で、さわやかな言葉を掛け合ってください。これからの皆さんの活躍を大いに期待しています。

最後になりましたが、保護者の皆様、あらためてお子様の御入学、おめでとうございます。本日より大事なお子様をお預かりいたします。本校の教職員全員でお子様を励まし、いつくしみ、立派な社会の一員となるよう導く努力をいたします。誠意を持って指導にあたることを誓いまして、式辞にかえさせていただきます。

令和六年四月九日

調布市立第八中学校 校長 馬場 誠